



- ①盛岡工場。パーツごとに縫製してアイロンプレスを交互に行い、18人で1着のブラックフォーマルが完成する流れ。
- ②仕様書をもとにパーツのパターン製図。CAD/CAMシステムによる忠実な再現。
- ③縮絨作業。生地ロールに高温蒸気をあてて繊維の絡りを矯正する。大型機械を導入している企業は県内では数えるほど。
- ④カッティングされたパーツ。美しい。
- ⑤サンプルをもとに型を修正。これを行わないと不良品が発生する重要な工程。
- ⑥熟練スタッフが一枚一枚を縫い上げる。
- ⑦生産工程のほか社員の1日の作業量のデータも表示される生産管理システム。作業意識の向上にも繋がっている。
- ⑧立体スチームアイロンでプレス、厳しいチェックのもと送り出されていく。
- ⑨二戸工場ではおよそ100人が働いている。

発信!!
いわての
カコポ

国内トップブランド が信頼を寄せる服づくり

製造業の中でも海外移転の動きが顕著な繊維・アパレル業界。安価で量産型ファッションが市場にあふれる中、高い技術力で独自の地位を築いている企業が株式会社三和ドレスである。国内トップブランドから名指しで受注が入るほどの実力は、「モノづくりは人づくり」という創業以来変わらぬ企業精神、そして社員教育の賜物であった。

原点は6畳2間での服づくり フォーマルウェアで技術を磨く

時代の女性たちを魅了し、社会を映し出す鏡でもあるファッション業界。めまぐるしく変わる流行がある一方、普遍的な気品と個性を際立たせるプレタクチュールは究極の装いといわれ、高い感性と磨き抜かれた技術の積み重ねによって作られてきた。二戸市と盛岡市に縫製工場を展開する株式会社三和ドレスは、このプレタクチュールの中でもニーズの高いブラックフォーマルに特化、最大手の東京ソワールをはじめ国内トップブランドメーカーの主要受注企業として、ゆるぎない地位を築いている。

同社は昭和41年、現社長の

大沢社長が東京の6畳2間のアパートで始めた家内工業が原点だ。「当時は『アパレル』という言葉すらない時代。それでも勤めていた繊維問屋で培った商売の知識のもとに、ミシン3台で製品を作って販売し始めました」。間もなく始まった高度成長の波にも乗り事業は順調に拡大、スカートにブラウス等々作ればなんでも売れたが、「技術力に不安を感じていた」と大沢社長は振り返る。転機は、同業者からの紹介で始めたブラックフォーマルの受注製作。技能レベルもわからずに難易度の高いパターンまで引き受け、無我夢中で要望に応える中で技術力は磨かれていった。そして遂にメーカーからの要望を受け、本県二戸市へ新工場を建設するまでの信頼を得たのである。

モノづくりは人づくり 技能五輪での連続快挙を更新中

二戸出身である大沢社長は東京でも岩手県出身者を雇用し、岩手県人の勤勉さはよく知っていた。昭和53年の二戸工場開設でも当然採用したが、地元の安心感ゆえか勤労意欲の低さに愕然とし社員教育の重要性を痛感。「仕事はゼロから覚えさせる方がいい」と、新卒者の雇用に取り組んでいく。昭和59年には、二戸高等職業訓練校の洋裁科開設にともない社員22人が入校、工場内に訓練校分室をおき技能教育を進めた。平成13年からは技能五輪全国大会へ連続して社員を送り、金・銀・銅のメダリストを立て続けに輩出。同21年にはカナダ・カルガリーの国際大会でも見事入賞を果たしている。企業内技能訓練システムの導入による社員一人ひとりのモチベーション向上が、この躍進に貢献しているのは間違いのない。

さらに同社ではコンピュータによる生産管理システムを導入し、デザインから生産まで一貫体制で対応。工程は繊維の絡りを直す縮絨から始まり、製図そして約80個ものパーツを切り抜くカッティングへ。ミシンのラインは18人で1クルーとし、ジャケットなら日産約80着を完成させてしまう。その最後は厳しい検品だ。「みんなの手の積み重ねで1着ができる。当社は、社員全員が専門職なんです」。大沢社長は胸を張る。

現在、およそ9割が海外生産で占められるファッション業界において、プレタクチュールの国内生産シェアは10%以下。それでも大手百貨店バイヤーの中には「三和ドレスの製品じゃないと置かない」という声が根強く、受注が追いつかない状態という。それでも大沢社長は「服作りは一生が勉強だから」と、技術力と品質の向上に余念がない。その誠実な姿勢に、ものづくり王国・日本のプライドを見た。

我が社の
カコポ
はコレ!

岩手のアパレル業界全体の 活性化にも貢献したい

岩手は多様な縫製・繊維関連企業が集積したものづくり地域。当社では昭和53年のミシン等設備貸与以来、産業振興センターと情報交換をし、アパレルマッチングフォーラムなどにも参加。地域産業の活性化にも繋がればと願っています。



代表取締役
大沢 孫藏

会社名 株式会社 三和ドレス
 本社 盛岡市東北北2-6-52
 本電話 019-635-0090
 代表者 大沢孫藏
 創業 昭和23年10月
 従業員 175名
 業種 縫製業(アンサンブル、ドレス、ジャケット)
 U R L http://www.ginga.or.jp/~sanwadress/

【支援企業紹介】盛岡市
株式会社三和ドレス

